

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2020. No.358 5
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

祈り信じて、互いに助け合っていていきましょう

Contents

見えない新型コロナウイルスとの戦い P.2-3

小西・酒井駐在員 現地の新型コロナウイルス感染状況

世界食料デー募金 Hunger Zero 活動報告

FH ケニア、インドネシア P.4-5

募集! HZスクールアンバサダー P.6

西日本豪雨災害活動報告 P.7

「真備児童館」に子どもたちの明るい声

COVID-19

「緊急救援募金」開始

見えない恐怖…新型コロナウイルス (COVID-19) との戦いの中で

～ 子どもたちや弱い立場にいる人々を守る現地スタッフの地道な活動 ～

ハンガーゼロ理事長 清家弘久

新型コロナウイルス (COVID-19) の報道が毎日のように世界中から流れています。WHO (世界保健機関) が3月11日に世界的流行を表すパンデミックを宣言しました。日本でもGW明けまで7都道府県への緊急事態宣言が安倍首相から発令されました。全世界では13万人を超える方がすでに亡くなり (4月13日現在)、いつ終息するのか全く見えない状況です。ボリビアで働いている小西さんやフィリピンの酒井さんからも「自宅での強制待機が命じられて、仕事はもちろん、買い物にも行くことができない」などの報告が届いています。(右P.3 参照)

先日、フィリピンで働いておられる宣教師の先生から連絡をいただき、マニラでの首都封鎖措置が続いているので、食料が手に入らず、地域の子どもたちがぎりぎりの状態なので、応援してほしいとの要請を受けました。子どもたちがお腹をすかせて泣いているそうです。また、コンゴ駐在スタッフのジェロームさんからも首都キンシャサがロックダウン (4月7日付) しているので、物流が全くなく、都市部でさえ食料が大量に不足しているの、地方はかなりのダメージを受けていると訴えてきました。

今年の初めには考えられなかったことが次々に起こり、人類は見えない恐怖と戦い続けています。皆様の生活にも大きく暗い影を落としていると思います。しかし、この闘いに必ず打ち勝つことができると確信しています。

BCG接種と新型コロナウイルスのことが最近注目を浴びています。BCGワクチン接種を義務化している国とそうでない国で重症化率や致死率が圧倒的な違いができています。原稿を書いている時点ではまだ仮説の段階ですが、コロナ対策として3月にオランダでは医療従事者に接種が開始されました。またドイツでも推奨され、オーストラリアでも開始されました。私たちが活動している、アジア、アフリカ、南アメリカではポリオやBCGワクチン接種が草の根レベルで行われています。世界人口の半分はテレビやインターネットとは無縁の人々です。最新の情報を持ってい



ない人々に対しての保健衛生指導やワクチン接種は容易ではありません。しかし、現場で働くスタッフの地道な活動が小さな子どもたちや弱い立場にいる人々を守ることに繋がります。ハンガーゼロの願いは、小さな草の根の活動が積み重なって「飢餓のない世界」を実現することです。



コロナウイルスの感染予防のために、手洗いが推奨されていますが、ユニセフによると世界人口の40パーセント、30億人が、石けんと水で手を洗う設備が自宅にありません。開発途上国の4分の3近くの人々は、基本的な手洗い設備が自宅にありません。47パーセントの学校には石鹸と水で手を洗う設備がなく、9億人の学齢期の子どもたちに影響を及ぼしています。世界の学校の3分の1以上、および開発途上国の学校の半分には、子どもが手を洗う場所がまったくありません。

「緊急救援募金」にご協力ください！

コロナ感染拡大により、ハンガーゼロの活動地でも人々への感染リスクや食料確保などが緊急的な課題となっています。このためハンガーゼロは、ルワンダでの食料配布 (P.3に記事) やケニアの保健衛生改善、インドネシアの妊婦健康促進 (P.4-5) などでの取り組みを強めて、コロナ感染の影響下にある人々を助けていきます。ぜひ応援をお願いします。

募金方法

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。
ウェブサイト <https://www.jifh.org>
郵便振替
00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構
※記入欄に「緊急救援募金」と明記



▲スマホから募金ページに

FHルワンダ コロナウイルス対策で食料配給

ハンガーゼロの農業支援活動地など

FHルワンダは4月7日現在、政府主導の食料配給プログラムに協力しています。配布する食料は、メイズ粉7,500kg、豆10,000kg。これに石鹼5,000個も加えています。これらはFHルワンダが調達したものです。

配給対象は、現在活動中の5つの地域（東部州のニャガタレ郡とガツィボ郡、南部州のムハンゴ郡、ルハンゴ郡、カモニ郡）で、コロナウイルスの感染拡大で食料確保が困難になっている1,000世帯。この中には、農業支援をしているキバレも含まれています。



人々は3月後半から始まった政府によるロックダウンにより、家から出ることが禁止されています。そのため政府は国内で活動する団体に食料提供を要請、FHルワンダもこれに協力しました。提供された食料は地方自治体を通して各戸に届けられ、まず困難に直面しているガツィボ郡の家庭に1,300kgの豆が配給されました。

またFHルワンダの活動地では、FH推奨の簡易手洗い装置（写真⑥）が普及しており、手洗いなどの衛生習慣が根付き始めています。今回の石鹼の追加支援もウイルス感染予防に役立つものと期待しています。



ボリビア多民族国駐在
小西小百合



ボリビアのコロナウイルス感染者は、4月8日時点で264人、死者は18人。3月22日から施行された終日外出禁止令（自宅隔離措置）が4月15日まで延長され、以下の制限が追加されました。

- ①3月26日午前零時より陸路も含めた国境の完全封鎖（ロックダウン状態）。
- ②同日緊急衛生戒厳令が発令され警察及び国軍の動員が拡大。外出が許されるのは、18歳～65歳までで身分証明書の末尾番号により買い物に出られる曜日を月～金曜日に振り分け（私は金曜日）。土・日曜日は完全外出禁止。

この禁止令に違反した場合は警察により8時間拘束され、罰金も1000Bs（ボリビアーノス：約144米ドル）、違反車両の運転手には2000Bs（約288米ドル）の罰金、さらに刑法を適用して違反者には最長10年の拘禁刑が科せられます。

FHボリビアのスタッフは小西も含めて自宅勤務（テレワーク）ですが、日当収入の仕事ができない人々は困難な状況に陥っています。

駐在員が伝える現地の新型コロナウイルス感染状況



フィリピン駐在
HOLPFI
酒井保・慶子



政府は頻繁にフェイスブックで、州民に自宅から出ないように呼びかけています。買い物には週3回一家に1枚発行される許可証を持って出かけられます。HOLPFIスタッフはそれぞれの自宅で仕事を続行。朝から夕方までビデオチャットでミーティングを行いました。今のところ関わっているアルサビ村、調査中のファグリブワン村、教育支援をしているサンアンドレス村、ハグナイアン村には感染者はでていません。各村にはCOVID-19の症状、予防の情報をお伝えしています。

マニラ在住の日本人情報では野菜が1週間手に入っていないとのことでした。マニラも同じように許可証がなければ買い物に外出することはできません。外国人の入国は禁止されていますが、出国は許されています。しかし数日前のニュースでは4,500人の外国人が出国できず、留まる宿もなく困っていると報告されていました。スラム、貧困地域の状況も懸念されています。

4月6日現在、フィリピンでの感染者は3,660人、死者163人、回復者73人です。村の人たちはロックダウンで人の流れが止まり、作物を買い取ってもらえず、現金収入がありません。アルサビ村、ファグリブワン村には政府より、物資及び、支援金が支給されました。

※酒井夫妻はこの後、日本に一時帰国されています。

子どもの保健衛生環境改善のため学校に雨水タンクを設置



FH= 国際飢餓対策機構

FHケニアは、メルケカウンティ・ブウリ地区において、トイレと雨水貯水タンクの設置及びそれらを管理していくための学校健康クラブ活動を支援しました。

気候に適した農業方法を取り入れることによってコミュニティの農業生産高向上を図ると同時に、収入創出の能力を向上させるものです。(写真④)

子どもたちに保健衛生教育

子ども時代に健康や衛生に関心を持って生活する態度が養われると、生涯良い衛生習慣を取り入れることができます。子どもたちがこのことをより良く理解できるように、「子どもの保健衛生トレーニング」のカリキュラムを用いて2020年1月と2月に、このトレーニングを行いました。これは5歳から12歳までの子どもたちに、演習やゲームを用いて身体の衛生と健康の関連を教えるために考案された、参加型のアプローチです。

ここでは一人一人の衛生状態が健康に直接つながることを教えます。子どもたちに対する保健衛生のトレーニングは、子どもだけではなく、その家族や仲間さらに将来の世代にまでも影響を及ぼします。

一方19年10月から20年1月は雨がよく降ったので、コミュニティ内には十分な水がありました。しかしほとんどの学校に雨水を貯める適切な設備がなかったために、水と保健衛生の必要に対して迅速に対応できませんでした。

FHケニアは学校、教育省や関係者と共にこの問題への取り組みを続けます。

干ばつが続き食料不安が緊急課題に

FHケニアが全てのプロジェクトの中間評価を行った結果、ブウリ地区の家族の食の多様性は、基準値より下がっています。これはこの3年間の干ばつによるものと思われます。農業用の水不足が人々の生活に打撃を与え、平均的な家庭の収入は非常に低く10ドル/月でした。

そのため「早急な食料安全保障と生計評価」が行われて、食料不安が優先課題であることがわかり、この地区では食料安全保障と生計向上のプロジェクトを行っています。

健康クラブで子どもと保護者が一緒に学ぶ

13の学校の健康クラブで、正しい衛生および生活習慣を促進させるために毎週集会を持ち、520名が参加しました。7校の健康クラブの保護者たちに生徒と一緒に用いるよう「子どもの保健衛生トレーニング」マニュアルがFHケニア



から配布されました。保護者は年末の、健康と衛生のためのイベントの準備をし、生徒は今学んでいる方法を伝えるために、歌や劇、詩を準備すると同時にこれらの習慣をさらに身に付けることが期待されています。

【13の学校の健康クラブが行った活動例】

- 環境衛生：溝のごみを集めて燃やしました。
- 助け合い：ロアール校では老齢の母親の畑の植え付けや、衣類、台所器具を洗って助けました。
- 病気の予防：マルレイ小学校ではメンバーが、他の生徒が見守る中で石鹸手洗いの方法を実演しました。
- 食事：カイルネでは、学校の庭で野菜や他の作物を育て、健康のために良い食事の重要性とそれによって学力を向上させることができることを学びました。

栄養食品バスケットで妊婦や子どもたちの健康促進



FHインドネシアは、支援コミュニティにおいて栄養改善プロジェクトを妊婦や幼児への栄養改善を支援しました。

2019年7月から10月にかけて3つのコミュニティ(ムアラ村、ムンテイ村、マイレペット村)から46人の母親に参加してもらって「栄養食品バスケット」のための集会を持ちました。妊娠中や授乳中の女性に緑黄野菜、卵、ミルクを取る重要性について認識してもらうための活動です。参加者はこの中で、栄養食品バスケットプロジェクトについての学びをしました。また栄養食品バスケットがどのように配布されるのか、どうすれば手に入れることができるのかについての話も聞きました。

妊娠中や授乳中の女性のグループ形成

FHインドネシアは出産ケアセンターと協力して、3つのコミュニティの妊娠中や授乳中の女性計28名で3つの受益者グループを作ってもらい、学習会を持ちました。学習会は受益者同士がお互いに学び合い分かち合う時間です。集会は毎週それぞれの村でFH農業プロジェクトの係員が行います。

女性たちは食品の栄養について学び、ヤギのミルクの良さを知りました。またその集まりに毎週参加して栄養食品バスケットを購入するように勧められます。バスケットの中には鶏卵2個、ヤギのミルク220ml、からし、ほうれん草、ささげインゲン、空心菜、など330gの野菜が入っています。女性たちは15000ルピア(約110円)を払って購入するか、あるいは農産物、キャッサバ、とうもろこし、ヤギの餌用の草などと交換して手に入れます。

妊娠中や2歳以下の子どもに授乳中の女性のほか、4歳以下の子どもを持つ女性もこの集まりに参加してこのバスケットを買っていました。

定期的に分ち合い

このバスケットの中身は、FHインドネシアの持続可能農業センターに参加している3つのグループの19農家が自宅で消費した余りをFHが買入れたものです。これらの農家は持続可能な農業の技術を学んで実践し、生産しています。その技術を向上させ生産を増やすために、グループの人たちは定期的に農業センターに分ち合いと学びを続けています。

ある母親の話

2歳のランディ君はいつもあまり食欲がありませんでした。彼の母親はヤギのミルクを買って試しに彼に飲ませてみました。村の人々にとってヤギのミルクを飲むのは珍しいことなので、彼女はランディ君がとても喜んで飲むことに驚きました。「子どもがミルクびん一本全部を飲んでくれてとても嬉しいです。良さが分かったので息子のために毎週ヤギのミルクを買っています」と彼女は話していました。



聖書の学び会

イエス・キリスト エクレスΙΑ

よろこび研究会

真理はあなたを自由にします。ヨハネ福音書8章32節

— この御言葉を中心として「よろこび」を学んでいます —



真理のことばで“よろこび”をお届けしています。

- ① 聖書、みことばをわかりやすく
- ② 日常生活に適用できるように
- ③ より実践的に

毎月新たな聖書箇所を読み、お一人お一人の状況に照らしてメッセージをしていきます。初めての方でも大丈夫です。共に学び、よろこびを探求しましょう。

メッセンジャー: 奥田英男 【参加自由・無料・席上献金有り】

http://yorokobi-lab.com/



✉ Info@yorokobi-lab.com 042(553)0511 (オクダ建設内)



SDGsに取り組む先生、生徒の皆様へ

ハンガーゼロ スクールアンバサダー

Hunger Zero
School Ambassador

2020年度
(第1期生)
募集中



STUDY!

ACT!

SHARE!

SDGs目標の第1と第2にある、世界の貧困と飢餓の現状を若い人たちに知ってもらい、ハンガーゼロのパートナーとして、共にこの課題に取り組んでいただく“スクールアンバサダー”を募集しています。

対象：中学生以上の学生

▶ 活動の事例 ◀ ※1~3.だけでなく独自の取り組みもできます。

1. STUDY (学ぶ)

学校でのSDGsの学びに加えて、ハンガーゼロのスタッフから活動地の現状や報告について聞く。

2. ACT (始める)

世界の貧困と飢餓をなくすためにできることを考え、実行する。文化祭などでの発表会やイベントを企画して世界の現状を伝える。

ハンガーゼロが主催する国内外のスタディツアーに参加。

3. SHARE (伝える)

ハンガーゼロ・ニュースやウェブサイトで「学んで実行したこと」を発信する。毎年秋に全国各地で行われる世界食料デー大会で研究発表をする。

▶ スクールアンバサダーになると ◀

- ① SDGsの実践として国際協力、社会貢献活動ができる。
- ② 学生の主体的行動力が育てられる。
- ③ プレゼンテーション力を高めることができる。
- ④ 大学入試に利用できる。
(インターン、ボランティア証明の発行)
- ⑤ ハンガーゼロの支援活動地の訪問に参加できる。

お問い合わせは

ハンガーゼロ TEL: 072-920-2225

メール: general@jifh.org

担当・近藤まで

第1期生モデル校として岡山県の
「創志学園高等学校」が決定!!

HZ 自販機設置で持続可能な支援を



授業で国連のSDGs(持続可能な開発目標)のうち「飢餓をゼロに」というテーマを学習してきました。「なぜ飢餓で苦しむ人がいるのか」を調べるうちに、飢餓の原因は単純に食べ物がないだけではなく、食べ物が十分にあっても貧困のために食料を買うことができない人がいること、また食料を作っても海外への輸出に使われてしまうことを知りました。そこで飢餓をゼロにするために何が出来るかを考えました。そして「ハンガーゼロ自販機」のことを知り、先生方にも協力していただいて、自販機を設置することができました。活動を通して、より多くの人に世界で起きている飢餓の現状を知って欲しいと思いました。(創志学園高等学校 渡邊七星さん)



新型コロナウイルスで学校休校の中… 復興した「真備児童館」に子どもたちの明るい声

2018年西日本豪雨災害活動現場からの報告

国内外から多数のボランティアが集結

私たちが真備児童館に作業に入ったのは2018年7月28日のことです。西日本豪雨が発生したのが7月の初旬であり、館内や広場には泥だらけの七夕飾りや遊具があふれ、浸水によって天井のボードや断熱材もドロドロに汚れ、床や駐車場には10センチほどの土砂が積もっていました。そのような中、ハンガーゼロの向頭スタッフと伊東スタッフが来られて「児童館に再び子どもたちの明るい声が戻る」として「庭の花壇がまた綺麗な花でいっぱいになること」を全員で誓って、復興に向けての作業が始まりました。

土砂の除去、壁や天井のボード剥がし、断熱材の撤

去など、連日の猛暑の中で作業が続く、多い日には国内外から40名ほどのボランティアが参加していただき、共に汗を流しながら一緒に作業をしました。

韓国オンヌリ教会の屈強な若者たち(写真⑤)が、天井を剥がす際に天井裏の汚水を頭からかぶりながら作業している姿に、児童館の館長が感動され、作業終了後の12月初旬に感謝状をいただきました。



共に作業したボランティアの人たちの奉仕を通して、素晴らしい愛の輪がこの地区に広がる機会にもなりました。

児童館はボランティアたちの丁寧な作業により、骨組みをそのまま生かした形でリフォームすることになり、再建工事は2020年2月末に終了いたしました。

そして現在、新型コロナウイルス感染拡大で学校の休校が続く中で、児童館は学童の受け入れ先としての役割を果たしています。ここまで携わってくださった3,400名余りのボランティアの皆様、そして何よりここまで導かれたことに心から感謝したいと思います。これからも、岡山真備の人々の復興のために愛を携えて応援を続けていきます。(報告・岡山キリスト災害支援室スタッフ)



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう

救缶鳥
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救缶鳥は
各地に飛んでいきました!



食料が不足している、
国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、
海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147

栃木県那須塩原市東小屋295-4

TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

コロナウイルス感染対策として 「テレワーク」を実施 ハンガーゼロ各事務所

すでにホームページでお知らせしておりますように、4月7日の「緊急事態宣言」発令により、当機構各事務所では翌日8日からテレワークの実施によりスタッフの出勤を制限させていただいております。

つきましては、支援者の皆様への電話対応・領収証の発行・支援申し込み手続きなどに遅れが生じる可能性がございます。

支援者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なおテレワークの期間につきましては、4月下旬以降の状況により、中止又は延長させていただく場合もございます。

お急ぎのご連絡は大阪事務所 電話 072-920-2225 又はメール general@jifh.org までお願いいたします。

コロナ感染の終息が見えず、支援者の皆様も大変な困難に見舞われていることと存じます。そのような中でもなお、飢餓・貧困に苦しむ人々に心を寄せてくださっていることを、スタッフ一同心より感謝申し上げます。皆様の上に守りと助けがありますようスタッフ一同心を強めてお祈りしております。

私は山に向かって目を上げる。
私の助けは、どこから来るのだろうか。
私の助けは、天地を造られた
主から来る。(聖書)



有機栽培のチョコレート 3種類からお選びできます

コロッとした種実をカカオ55%以上のダークチョコレートでコーティング。味は①ローストアーモン、②ブルーベリー、③ヘーゼルナッツの3種類。

1袋内容量：40g入りで380円
①②③3種セットを送料込み1,300円でポストにお届け。

*4袋以上お求めの場合は送料別途加算。詳細はお問い合わせください。



お申し込み：(株)キングダムビジネス
スマートフォンはQRコードから
電話注文：06-6755-4877

【お支払い方法】
当社指定口座へ 後払い
郵便振替 00950-0-216776
(株)キングダムビジネス

本やゲーム、CDの整理に 本 de リンクを活用ください

愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援に使わせて頂いています。引越しなどの際はぜひご利用ください。破れや汚れ、書き込みのある本、個人出版、文学全集、CD類割れ、ジャケット、歌詞カード不備など対象外となる場合もありますので、ご利用の際はまず愛知事務所へお問合せください。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

ハンガーゼロ「愛知事務所」移転完了

4月1日にハンガーゼロ愛知事務所が名古屋市中区の名古屋YWCAビル6階に移転しました。

【新住所】

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3
名古屋YWCAビル6F

TEL :052-265-7101 FAX :052-265-7132

※ TEL・FAX は変更なし

♪ハンガーゼロ親善大使を応援ください!

上原令子、森祐理、小堀英郎、ソン・ソルナム、紫園香、Manami、ナイト de ライトの各親善大使はコロナ感染の自粛対応でコンサート活動が停止する状態が続いています。この機会にCD購入などで応援をお願いします。

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名			
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL 358号

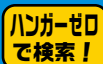
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □ (1円 1,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □ (1円 500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4723** 口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 名古屋YWCAビル6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター